

ご挨拶

副会長

くわはら ひろ や
桑原 裕哉

富士通Japan(株)
ヘルスケア事業本部長



この度、副会長に就任いたしました桑原でございます。

JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私たちを取り巻く保健医療福祉分野の環境は、中期計画2029にも示されているとおり、大きな変革期を迎えております。少子高齢化の進展、人材不足、地域医療における格差の拡大、増え続ける医療費への対応など、多くの社会課題に直面している状況です。

こうした中、2023年6月に公表された「医療DXの推進に関する工程表」に基づき、さまざまな施策が着実に進められております。本年は、まさに「医療DXの実装フェーズ」とも言える重要な年であり、「全国医療情報プラットフォーム」「標準型電子カルテ」「診療報酬改定DX」といった国の大型施策が、さらに本格化していくものと考えております。

また、Claude Mythosに代表されるフロンティアAIの台頭は、サイバーセキュリティ上の新たな課題をもたらす一方で、私たちに大きな変革をもたらす新たな価値創出の原動力でもあります。さらに、「経済財政運営と改革の基本方針2026（骨太方針2026）」には、AX（AIトランスフォーメーション）が初めて明記され、AIの社会実装を通じて産業全体の生産性向上と競争力強化を推進する方針が示されました。ヘルスケア分野においても、生成AIのみならずフィジカルAIの活用が進み、医療・介護現場における業務変革や新たな価値創出に向けた取り組みが一層加速していくものと考えております。

このように、保健医療福祉情報システムを取り巻く技術や環境が急速に進化する今、JAHISが果たすべき役割はますます重要になっています。JAHISは、業界を代表する団体として、行政や関係機関との連携を深めながら、標準化の推進や新たな技術活用に向けた環境整備に取り組み、保健医療福祉分野の発展に貢献していかなければなりません。

また、JAHISが掲げる「2030ビジョン」の理念である「データ循環型社会の実現」に向け、保健医療福祉分野におけるデータの蓄積・循環・利活用を促進し、その成果を国民の皆様が実感できる社会の実現を目指していくことが、私たちに課せられた重要な使命であると改めて認識しております。

私は、2024年6月までの3年間、医療システム部会長を務めさせていただきました。理事として2年ぶりのJAHIS復帰となりますが、これまで培ってきた経験を活かし、会員の皆様とともにJAHISのさらなる発展と「2030ビジョン」の実現に向けて尽力してまいり所存です。

会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

理事

たかはし とおる

高橋 徹

キヤノン(株)

メディカル事業本部

画像診断システム事業部 画像診断システム第三事業センター 上席



一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）会員の皆様、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、理事を拝命いたしましたキヤノンの高橋徹でございます。就任にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

わが国では、高齢化の進展と人口減少が同時に進む中、医療・介護人材の不足や在宅医療需要の増大を踏まえ、限られた供給能力の下で質の高い医療・介護提供体制を持続可能な形で確保することが喫緊の課題となっており、保健・医療・福祉等のヘルスケア分野におけるデータの利活用を一段と進めることが不可欠であります。一方、国民皆保険制度のもとで質の高い医療が提供されているにもかかわらず、法制度やガバナンス、推進体制、データ連携基盤の整備等が不十分であるため、ヘルスケアデータの利活用が十分に進んでいません。特に、診療等の一次利用と研究開発等の二次利用が制度的・技術的に分断されていることが、医療DXを通じたイノベーションの加速を妨げるとともに、現場における非効率の一因となっています。

こうした中、わが国でもヘルスケアデータの連携・利活用に関する共通ルール整備を進めるべく、本人同意を中心とした入口規制から、利活用目的や禁止事項の明確化、セキュアなデータ連携・解析環境の構築、ならびに適切な審査・監督を一体的に講じる出口規制を重視した制度設計へと転換する動きが具体化しています。また、ヘルスケアデータの利活用を促進する法制度のあり方に関する検討も進められております。

このような取り組みは、JAHISが掲げる「2030ビジョン」まさにそのものであります。JAHISは、健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現を目指し、「データ循環型社会の実現」をコンセプトに活動を展開しています。これは、健康・医療・介護分野のデータを蓄積・循環・利活用することで、データ提供者である国民がその恩恵を享受できる社会の構築を目指すものです。

キヤノンのメディカルグループでは、患者、医療従事者とともに歩むという思いを「Made for Life」という事業スローガンに表し、医療・健康・福祉の広い分野で人々の健やかな生活の実現のために、豊かな価値を創造しお客様に提供してきております。私自身も入社以来、患者様とご家族が笑顔になるように、という思いで取り組んでまいりました。JAHISが目指す「データ循環型社会の実現」におきましても、生活者目線を忘れずに、出口規制を重視した制度設計に向けた標準化を推進しつつ、産官学で連携し、データが最大限活用される社会の実現を目指して参りたいと思います。

皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

理事

みやかわ りき

宮川 力

(株)ファインデックス

取締役



このたび、理事に就任いたしました宮川でございます。会員の皆様、ならびに関係各位におかれましては、平素より当会の運営と活動に格別のご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

新卒で社会人となって以来、前職時代を含めて一貫して医療システムの分野に身を置き、長きにわたり電子カルテをはじめとする病院情報システムの開発・導入に携わってまいりました。JAHISとのお付き合いも20年近くになります。この間、一人の技術者として活動に参加し、前職時代には注射データ交換規約や電子処方箋実装ガイドの作成に携わり、現在も次世代データ交換技術WG、シングルサインオンWG、HPKI電子署名規格作成WGなどに所属しております。JAHISの活動を通じて何より得がたいと感じてきたのは、会社の垣根を越えて、ベンダーの技術者同士が忌憚のない意見を交わせる場があるということです。日頃は市場で競い合う各社の技術者が、医療情報という共通の課題を前に率直に議論し、知恵を持ち寄る。この協調の文化こそがJAHISの財産であり、医療および介護の情報標準を支えてきた原動力であると実感しております。

さて、医療情報システムを取り巻く環境は、いま大きな転換点を迎えています。電子カルテ情報共有サービスの全国的な運用が始まり、電子カルテの普及に関する目標も法律に明記されるなど、HL7 FHIRをはじめとする標準化によって医療情報が施設の壁を越えて「つながる」時代が、いよいよ現実のものとなりつつあります。情報がつながることで蓄積されるデータは、二次利用やAIの活用を通じて、医療の質の向上や研究開発に資する我が国の貴重な資源となります。そして、つながり、集まるからこそ、認証・署名の基盤やサイバーセキュリティをはじめとする安全管理は、私ども産業界が果たすべき責任の根幹となります。「つなぐ」「活かす」「守る」——この三つを一体のものとして推進していくことこそ、JAHISに求められる役割であり、当会が掲げる『データ循環型社会の実現』にも通じるものと認識しております。

理事としては、制度と現場の間に立つ工業会だからこそできる、実装者の視点に立った標準化と、会員各社の技術者が存分に力を発揮できる交流の場づくりに、微力ながら貢献する所存です。

結びにあたり、会員の皆様の一層のご支援とご参画をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝と、我が国の保健医療福祉のさらなる発展を心より祈念いたしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

監事

こ だ ま たつひろ
児玉 達弘

オリンパスメディカルシステムズ(株)

アプリケーション ソフトウェア デベロッップメント ヴァイスプレジデント



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび監事を拝命いたしましたオリンパスメディカルシステムズの児玉達弘でございます。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

現在、日本の医療を取り巻く環境は大きな変革期を迎えています。少子高齢化や医療従事者不足への対応、地域医療の維持、医療費の適正化など多くの社会課題が存在する中、医療DXはその解決に向けた重要な取り組みとして期待されています。全国医療情報プラットフォームの整備や電子カルテ情報の標準化が進められていますが、その実現には医療情報の標準化と相互運用性の確保が不可欠であり、JAHISが長年推進してきた活動の重要性はますます高まっていると考えております。

オリンパスは、グローバルなメドテックカンパニーとして、内視鏡をはじめとする医療機器や医療情報ソリューションの提供を通じて医療の発展に貢献してまいりました。近年では、ソフトウェアやAIを活用したデジタルソリューションの開発にも注力し、医療現場で生み出されるデータの利活用を通じて、医療従事者の業務効率化や医療の質向上を支援しています。

医療DXの本質は、単なるデジタル化ではなく、患者さん、医療従事者、そして社会全体に新たな価値を創出することにあると考えています。その原点は「患者さん第一」にあります。患者さんがより安心して質の高い医療を受けられる社会の実現に向けて、必要な情報を必要な時に安全かつ円滑に活用できる環境を整備することが重要です。

また、データ活用、標準化、サイバーセキュリティは世界共通の課題です。JAHISは国内における標準化の推進役であるとともに、国際標準との接点を持ち、日本と世界をつなぐ重要な役割を担っています。日本の医療現場の知見を国際的な議論につなげるとともに、世界の先進的な取り組みを国内へ還元する架け橋として、その存在意義は今後さらに高まるものと考えております。

監事として、会員の皆様から託された貴重な資源が適正かつ効果的に活用されるよう、公正で透明性の高い運営の確保に努めるとともに、JAHISの健全な発展に貢献してまいります。

今後とも、皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

監事

やまもと たくま

山本 拓真

(株)カナミックネットワーク

代表取締役社長



この度、2026年度からの2年間、一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）の監事を拝命いたしました、株式会社カナミックネットワークの山本拓真でございます。JAHIS会員の皆様、そして日々日本の保健医療福祉を支えていらっしゃるすべての関係者の皆様に、心より御礼と敬意を申し上げます。

現在、我が国は世界に類を見ないスピードで超高齢社会を突き進んでいます。内閣府の「高齢社会白書」によると、2024年にはすでに高齢化率が29.3%に達しており、今後もその割合は増加の一途を辿ると予測されています。さらに、生産年齢人口の急激な減少に伴い、2040年には医療・福祉分野で約96万人の就業者数が不足するという深刻な課題が報告されています。増大し続ける社会保障費の抑制と、深刻化する現場の人手不足への対応は、もはや一刻の猶予もない喫緊の課題です。

こうした歴史的な転換期において、情報技術、特に「医療・介護・障害」の各領域を跨ぐ情報システムの果たす役割は極めて重要です。これまで、医療や介護の現場では、それぞれのシステムが独立して構築される「情報のサイロ化」が大きな課題となっていました。しかし、これからの時代に求められるのは、患者や利用者が地域で自分らしく暮らし続けられる「地域包括ケアシステム」の実現です。そのためには、医療、介護、そして障害福祉の各現場を有機的に繋ぐ「多職種連携システム」の構築が不可欠です。

カナミックネットワークは、創業以来、クラウド技術を活用した医療・介護・障がい分野の多職種連携プラットフォームの提供を通じて、地域包括ケアの実現に邁進してまいりました。現場のスタッフがリアルタイムで情報を共有し、手を取り合って一人の利用者を支える環境を作ることこそが、業務の効率化を推進し、「より少ない人手でも回る持続可能な現場」を構築する鍵であると確信しています。

JAHISが掲げる「2030ビジョン」のコンセプトである「データ循環型社会の実現」は、まさにこうした現場のデータが蓄積・循環し、利活用されることで、最終的に国民一人ひとりがその恩恵を享受できる社会を目指すものであり、私たちのビジョンとも完全に合致しています。国が責任を持って主導する「医療DX」の動きとも足並みを揃え、標準化された技術基盤のもとで会員企業が創意工夫を競い合える環境を支援していくことが、JAHISの重要な使命です。

この度、JAHISの監事という重責を担うにあたり、私は会員企業の皆様が頂戴している大切な会費を財源とする工業会活動が、適切な資産管理のもと、公正かつ効率的な予算執行をもって運営されるよう、厳正に監査の職責を果たしてまいります。同時に、一ベンダー企業の経営者としての知見を活かし、政府の推進する医療DXのスピードと、現場の医療機関や会員企業の現実的な対応能力とのバランスにも配慮し、誰も置き去りにされない「全体最適」の視点から、JAHISの健全な組織運営と日本の保健医療福祉の発展に尽力する所存です。

会員の皆様の一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。